

2012年度 女子：国内競技会の改編

2008年に全国高等学校体育連盟サッカー専門部に「女子部」を設置、
2012年から全国高等学校総合体育大会のサッカー競技に「女子」が加わる。

それを契機として、
女子チーム・女子選手の活動の実態に即したゲーム環境を整備することを目的に、
女子全体の国内競技会の在り方を再考し、改編を行う。

前提：「学校」「クラブ」の共存

種別「女子」では、チームの成り立ちの経緯から、
いわゆるクラブチーム中に学校のチームが内在するケースがある。

JFAはこれを女子独自のチーム形態として否定せず、
女子チーム・女子選手が増えていく過程において、
様々な形、柔軟な形でチームがつけられることをこれからも推奨する。

そして、今回の大会改編がその妨げにならないよう、留意する。

[補足]

高校生以上の年代で「高校」「大学」「クラブ」と大会が分かれるが、
現時点では各カテゴリーの認知・普及、組織の充実を重視するためであり、
将来的にはそれらを統合する大会・リーグの設立を目指す。
連盟の壁を越え、より拮抗した試合が行われる中で、
チーム・選手が成長できる環境こそが、
日本一を決める大会として本来追求すべきものとする。

前提： 2015年に向けての今

女子サッカーの環境はまだ発展途上である。

環境、競技人口が変化、醸成してくれば、
大会もそれに伴って、さらなる改編が必要である。

次の改編目標年を

「女子のプレーヤーが300,000人になる」2015年と考え、
それまでに行わなくてはならないことを具現化するために、
今回の改編を行う。

目的： 女子チーム数・選手数を増やす。

女子チーム・女子選手の増加なしには、
女子サッカーの認知向上・環境向上は果たせない。

いずれの大会においてもなんらかの形で
「普及」につなげていくという考えを前提とする。

→ 2015年、女子のプレーヤーを300,000人にする。

目的：年代に応じて必要なゲーム環境を提供する。

【U-12 小学生年代】
始めから男女を分けて考えない。

サッカーを始めるきっかけ・場所はたくさんある。
女子選手だけのチームであっても「第4種」で活動して構わない。

【U-15 中学生年代】
育成において重要な年代。
次の年代で「成人」とするために、この年代でしっかり育てる。

登録選手数減に歯止めをかけるため、フットサルも含め、さらなる普及・活性化を図る。

【高校生以上】
サッカー選手として「成人」の年代。
女子としての「第1種」。
= 18歳で区切るこの意味がない。

年齢の区切りではなく、選手のレベル・目標に応じた競技会に。拮抗した試合を数多く行う中で、強化・育成を図る。

目的： 女子のリーグを整備する。

【U-12 小学生年代】

始めから男女を分けて考えない。

男子といっしょに

女子選手だけのチームでも、
U-12リーグに積極的に参加。

(全日本少年サッカー大会などにも)

【U-15 中学生年代】

育成において重要な年代。

次の年代で「成人」とするために、
この年代でしっかり育てる。

女子のリーグ

男子といっしょに

選手・チームの特徴・レベルに応じて、
いずれかのリーグに参加。

同年代男子のリーグにも積極的に参加。
将来的に「女子U-15リーグ」を創設。

【高校生以上】

サッカー選手として「成人」の年代。

女子としての「第1種」。

= 18歳で区切ることの意味がない。

女子のリーグ

大学・高校を含めたリーグの
ピラミッドを構築。

なでしこリーグ⇔チャレンジリーグ⇔
地域リーグ⇔都道府県リーグの
整備・充実を図る。

現在

22歳

18歳

15歳

12歳

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

高校

U-15

ガールズ・エイト

国体

全日本フットサル

レディース

大学

BEST 4

全日本

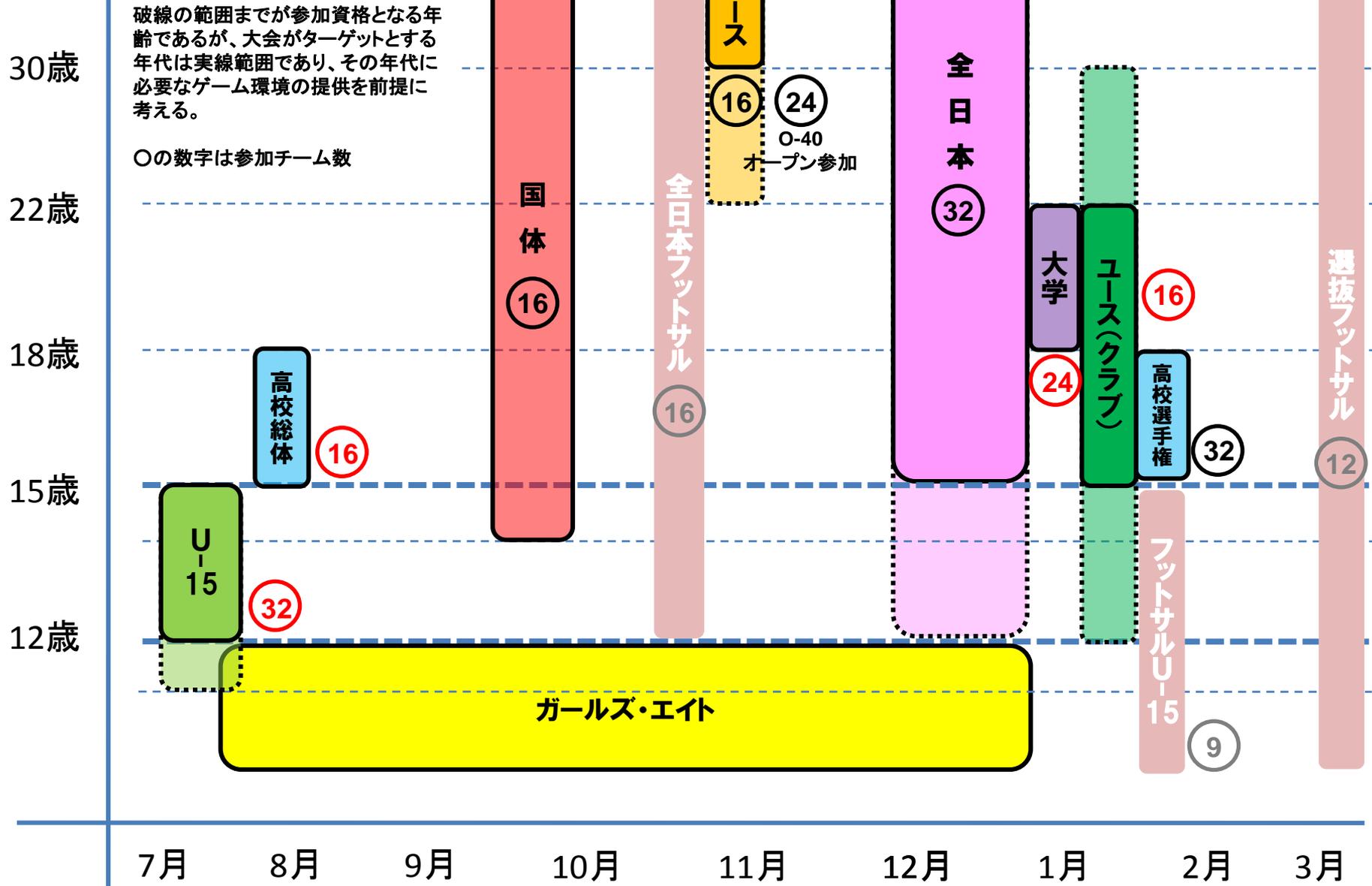
大学

U-18

フットサルU-15

選抜フットサル

2012年度



全日本女子ユース選手権大会

【目的】

クラブチームのさらなる増加・活動の活性化

- ・チーム・選手のレベルアップ
- ・15歳以下のチームから16歳以上のチームへの発展
- ・19歳以上の選手たちの試合出場機会の増加
(18歳から19歳で登録人口は3分の1に)
- ・生涯サッカーを続けていける土壌に

【留意点】

①中学生以下の選手だけの出場は不可

- ・育成年代として適切な大会の選択
- ・大会日程の過密
- ・低年齢の選手が参加することによる試合負荷の懸念
→選手の成長・成熟を考慮して大会参加を検討する。

②「高校」「大学」「クラブ」の交流、切磋琢磨の機会を「リーグ」で整備していく。

【将来的展望】

- ・「高校」「大学」「クラブ」によるチャンピオンシップの創設
- ・全日本女子選手権の拡大

今後の取り組み

- ◆ リーグの整備
- ◆ 地域・都道府県大会(予選)の充実
- ◆ フットサルとの連携・融合
- ◆ 大会に即した、登録制度の改編
- ◆ レディース大会の再考
- ◆ U-12年代の大会を、普及・育成の観点で改めて検討